

第1学年 道徳学習指導案

1組 計23人 (男子12人, 女子11人)

指導者 田平 奈保美

1 主 題 名 「自分のことは自分で」(1-(1) 節度・節制, 自立)
読み物資料「しまのおさるたち」(学研教育みらい1年)

2 主題について

(1) 内容項目と

その系統

【低学年1-(1)】

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

【中学年1-(1)】

自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

【高学年1-(1)】

生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。

(2) 指導内容についての基本的な立場

自立とは、他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり、身を立てたりすることである。健康や安全に気を付けること、物や金銭を大切にすること、身の回りの整理整頓を心掛けることなどは、日常生活を送っていく上で重要なことであり、それらを自分から進んですることは、自身の生活をよりよくしていくことにつながる。

この期の子どもたちは、学校の集団生活にもだいに慣れ、規則を守って行動することができるようになってきている。その中で、自分がしなければならないことが分かってくる。そして、うまくやりたい、褒められたいという気持ちから、自分から取り組もうとする姿も見られるようになる。しかしながら、面倒だという怠惰な気持ちや誰かがやってくれるだろうといった労苦からの逃避により、自分でできることも自分でやろうとせずに他者に依存したり、できなかったことを他者の責任にしてしまったりすることも見られる。

そこで本主題では、自分でできるにもかかわらず、自分の周りの人にしてもらっていることがあることや、人に頼ってしまう心の弱さを誰でももっており、それを乗り越えられないことが自分の気持ちを暗くしたり、自分のよさを失わせたりすることに気づくことができるようにする。そして、人に頼らず、自分の力でできることのよさに触れ、そのときの喜びや心地よさを感じることができるようになる。これらのことにより、自分の生活を見直し、自分から進んで規則正しい生活を心掛け、自分でできることは自分でやっという態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造 (価値構造図)

第1学年及び第2学年

人に頼らず、やるべきことは自分の力でしようとする態度を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

対自分	ア	自分の力ですることができて、気持ちがいい (自己の快い感情)
	イ	いろいろなことが自分の力でできる (自己の成長)
	ウ	これからも自分のことは自分でやっという (意欲の向上)
対他者	エ	自分でできることを褒めてもらえる (他者からの称賛)
	オ	互いに分かり合える (信頼関係の深まり)
	カ	相手もいい気持ちになる (他者の快い感情)
対社会	キ	互いに協力し合える (他者の成長)
	ク	みんなが支えあえる社会ができる (集団・社会の成長)
	ケ	みんなが気持ちよく暮らせる (明るく楽しい生活)
	コ	みんなのことがよく分かる (気持ちの通い合い)

二面性

実践を阻む要因

- a 自分本位な考え (自分はしなくていい)
- b 労苦からの逃避 (誰かがしてくれるだろう)
- c 怠惰 (面倒くさい)
- d 無関心 (どうでもいい)
- e 虚栄心 (よく見せたい)
- f 楽観的な考え (なんとかなる)
- g 思慮不足 (もういいや)

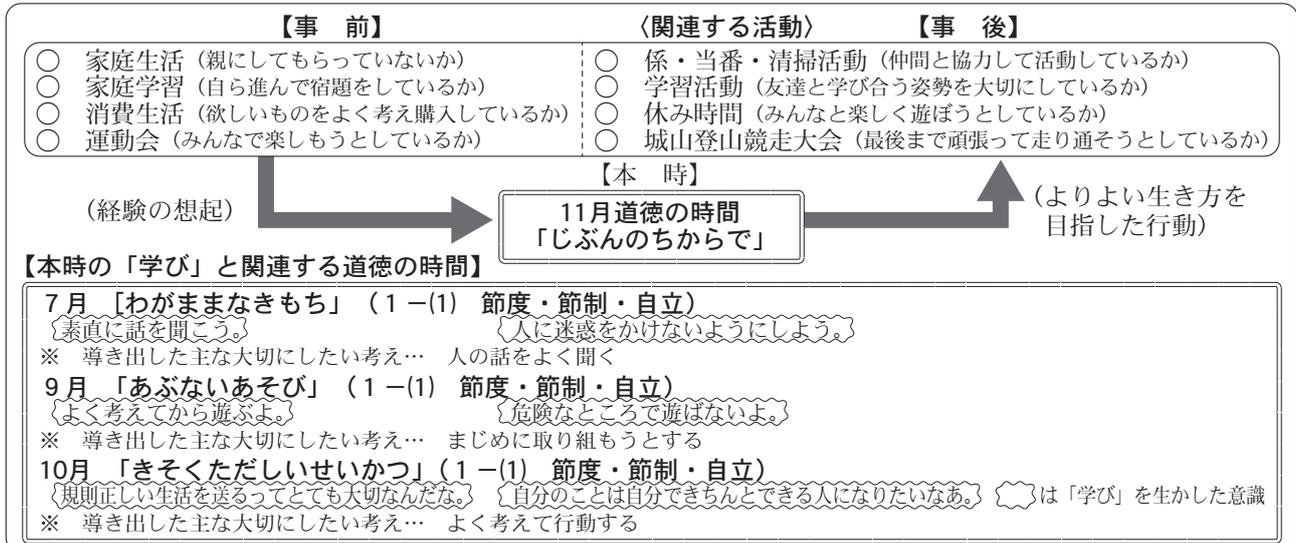
心の葛藤

- ①自らよく考えて行動する (自立)
- ③真面目に取り組もうとする (意欲)
- ⑥友達と仲よくする (協力)

- #### 心 構 え
- ④人の話をよく聞く (受容)
 - ⑦我慢する (節制)

- ②人に迷惑をかけない (思慮)
- ⑤叱られないようにする (節度)
- ⑧素直な気持ちをもつ (誠実)

(4) 本主題に関する「学び」の関連



3 子どもの実態

（調査人数23人 複数回答あり H22. 9. 21）

(1) 本主題に関する経験場面①

自分のことは自分でできた経験	人数
・ 宿題	12
・ 時間割	8
・ 早寝早起き	7
・ 係活動	6
・ 部屋の片付け	6
・ 自主清掃	4
・ あいさつ	1

(2) 本主題に関する経験の理由①

自分のことは自分でできた理由	人数
・ 自分でやろうと思ったから	9
・ 頑張ろうと思ったから	9
・ ほめてもらいたいから	5
・ 無回答	1

(3) 本主題に関する経験場面②

自分のことは自分でできなかった経験	人数
・ 早寝早起き	8
・ 歯みがき	7
・ 時間割	6
・ 身の回りの片付け	3
・ 手伝い	2
・ 係活動	1

(4) 本主題に関する経験の理由②

自分のことは自分でできなかった理由	人数
・ やりたくなかったから	10
・ 面倒くさいと思ったから	6
・ むずかしくて分からなかったから	3
・ お母さんがやってくれるから	2
・ むずかしかったから	1
・ ほかにやりたいことがあったから	1

(5) 道徳的価値の意義

自分のことは自分ですることがどうして大切な	人数
・ 自分でしないといけないから	10
・ 迷惑をかけるから	7
・ 自分でしないと分からなくなるから	3
・ 大人になって何もできなくなるから	2
・ 無回答	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

自分のことは自分でするための心構え	人数
・ 自分の力で最後まで頑張る気持ちをもつ	19
・ 最後まであきらめない	9
・ 自分でやろうとする気持ち	6
・ よく考える気持ち	4
・ 人に迷惑をかけない気持ち	3
・ 我慢する気持ち	2
・ 無回答	1

【考察】

学級のすべての子どもたちが、自分のことは自分でできた経験があると答えている。それらは、学校内外での経験を想起していることが分かる。自分のことは自分でできたときの理由としては、自分でやろうと思ったから、「頑張ろうと思った」など、意欲の向上からの理由を挙げている子どもが多いことが分かる。一方、ほとんどの子どもが、自分のことが自分でできなかった経験があると答えており、その理由としては、「やりたくなかったから」、「面倒くさいと思ったから」など、自分本位な考えや労苦からの逃避が主な要因となっていることが分かる。また、自分のことは自分ですることの意義としては、「自分でしないといけないから」、「迷惑をかける」などといった自分や周りのことを考えて行動することの大切さを挙げている子どもが多いことが分かる。そして、自分のことは自分でするための心構えでは、「自分の力で最後までがんばる気持ちをもつ」という考えが多く、次いで「最後まであきらめない」という考えが挙げられている。

この調査を踏まえ、自分のことは自分でできた経験の中にも、時折、できていないことがあることがわかる。このことから、自分の力ですることは大切だと分かっているながらも、自分本位な考えや労苦からの逃避の理由等でできなかったことがあることに気付かせたい。また、ほとんどの子どもたちが、自分の力でできるようにするには、「頑張ろうという気持ちをもてばいい」と自身の意欲の向上を挙げているが、今回、「自らよく考えて行動する」という考えを意識させるために、自分のことだけでなく、「お世話になっている人に迷惑をかける」「みんなと協力してやっていく」などの相手や集団社会を意識した心構えを見つめることができるようにしていきたい。その中で、教師と一緒に大切にしたい考えを選択し、これからの生活に生かしていきたい心構えを明確にしていくことで、道徳的実践力の育成に努めていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

ある島に、たくさんのさるたちが住んでいた。その中に、だいきちぎるといふ世話好きのさるがいた。島のさるたちは、いつも、だいきちぎるに頼んで食べ物をとってもらい、自分たちは何もしないで生活していた。ところが、ある日、だいきちぎるが出かけて、島に帰ってこられなくなった。さるたちは食べ物がなくなり、どうしたらいいのか分からなくなってしまった。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場面	価値の分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 だいきちぎるに頼んで食べ物をとってもらい何もしないさるたち【心の弱さ】	a 自分本位な考え（自分はしなくていい） b 労苦からの逃避（誰かがしてくれるだろう） c 怠惰（面倒くさい） d 無関心（どうでもいい） ----- ①自立 ②思慮 ③意欲 ④受容	<ul style="list-style-type: none"> だいきちぎるは優しいなあ。 食べ物をとってもらえるから楽だなあ。 いつも遊んでいられていいなあ。 ずっとだいきちぎるさんいてね。 いつもありがとう。 ずっと続くといいな。
2 だいきちぎるを見送り、だいきちぎるがとっておいた食べ物を食べていたさるたち【迷い】	b 労苦からの逃避（誰かがしてくれるだろう） c 怠惰（面倒くさい） f 楽観的な考え（なんとかなる） ----- イ 自己の成長（対自） オ 信頼関係の深まり（対他） ク 集団・社会の成長（対社） ----- ①自立 ②思慮 ③意欲 ④受容 ⑥協力 ⑦節制	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物がたくさんあるから大丈夫。 すぐ帰ってくるから大丈夫だ。 困ったなあ。おなかすいたな。 誰か助けてくれないかな。 早く帰ってかえってきてくれないかな。 このままじゃ死んじゃうよ。
3 食べる物がなくなってきた、どうしたらいいかわからずただうろうろ歩き回るさるたち【迷い】	b 労苦からの逃避（誰かがしてくれるだろう） c 怠惰（面倒くさい） f 楽観的な考え（なんとかなる） ----- イ 自己の成長（対自） オ 信頼関係の深まり（対他） ク 集団・社会の成長（対社） ----- ①自立 ②思慮 ③意欲 ④受容 ⑥協力 ⑦節制	<ul style="list-style-type: none"> もういやになるな。 どうしてこんなことになるのかな。 どうにかして、食べ物をとってみよう。 食べ物をとる練習をしておけばよかった。 自分でやっておけばよかった。

この資料は、だいきちぎるに日頃から何事も頼りがちで、だいきちぎるが不在の機に自分たちの無力さに気付く、途方に暮れるという「さるたち」が主人公の話である。困っているさるたちの姿に日頃の自分たちの生活の様子を重ね合わせて考えることのできる内容である。だいきちぎるをお世話になっている人、さるたちを自分たちに置き換えて日頃の生活を振り返って考えることで、自分のことは自分ですといった基本的な生活習慣の大切さを考えることができるであろう。

今回、「頑張れば自分でできる」と思っている本学級の子どもたちの実態を踏まえながら、お世話になっている人への気持ちを取り上げていくことで、自分のことは自分でできるようになるにはどのような気持ちが必要かを考えるためにこの資料を活用する。

5 本時

(1) 目標

自分のことは自分でするための考えを導き出し、自分のことは自分でしようとする意欲を育てる。

(2) 指導に当たって（研究内容との関連）

○「見つめる」過程では、子どもたちが、主人公のさるたちになりきることができるように小道具や場の設定の工夫を行い、動作化や役割演技を用いて主人公の気持ちを表すことができるようにする。その際、教師が発問等を柔軟に行うことを通して、子どもたちの考えを引き出したり、子ども同士の考えをつないだりすることで、子どもが、友達の考えと似ているところや違っているところに気付くことができるようにする。教師が、柔軟に子どもたちに問いかけの発問ができるように、あらかじめ発問の種類と発問例を整理しておく。また、子どもたちの考えを2つの観点（対自分、対周囲）で分類し、板書で整理することで、道徳的価値に関する見方や考え方に、広がりや深まりをもつことができるようにする。

○「深める・高める」過程では、「見つめる」過程とのつながりをもたせながら、大切にしたい考えと関連する経験を振り返り、「自分づくりカード」にまとめる活動を取り入れる。そのことで、関連する日常経験の場面では、大切にしたい考えが生かされるように、または、これから生かせると気付くことができるようにし、日常生活への実践意欲の向上を図る。

過程

主な学習活動と予想される子どもの反応

教師の指導

(分)

1 自分のことが自分でできなかつた経験について話し合う。

気付く

自分のことなのに自分でできなかつたことではないかな。また、どうしてしてできなかつたのかな。

明日の準備をお母さんにしても良かったことがあります。夜、眠くてするのがめんどくさかつたから。



給食のお盆ぶきをきちんと片付けたら。誰かがすると思つたら。

(5)

じぶんのことをじぶんでできるよ。どんなきもちをもてばいいだろう。

見

2 資料「しまのおさるたち」の紙芝居を見て、「さるたち」の気持ちを中心に話し合う。

つ

(1) だいきちざるに食べ物をとってもらっている「さるたち」の気持ちについて話し合う。

め

・ 楽だなあ。いつも遊んでばかりでいいなあ。 ・ だいきちくんありがと。

る

(2) だいきちざるが出かけたときの「さるたち」の気持ちについて話し合う。



(30)

・ 早く帰ってきて。 ・ どんどん食べ物がないから困るよ。 ・ おなかですいたよ。 ・ 自分でできないよ。 ・ だいきちさん早く帰ってきて。 ・ なくなつたらまた、とってもらえばいい。

深める

(3) 食べ物がない、うろろろしている「さるたち」はどんなことを考えたのか話し合う。

(対自)

・ もつと自分たちで、食べ物をとることをしておけばよかった。 ・ だいきちくんにとりかたを覚えてもらってあげよう。

(対他)

・ だいきちくん、今までありがと。 ・ みんなで協力してたくさん食べ物をとって困らないようにするよ。

深める

3 これまでの自分を振り返り、自分のことは自分でできた経験をとめる。

・ 高める

自分のことは自分でできたことは何かありませんか。となりのお友達に教えてあげましょう。



・ 明日の準備をするときに、今までお母さんにしてもらっていたけど、自分で時間割を見てしているよ。そうすると自分でわかるから。

(10)

4 保護者からの手紙を読んで、本主題の道徳的実践意欲を高める。

(10)

・ おうちの人が褒められてうれしいな。またがんばるぞ。 ・ 自分でできることは、自分ですることって大切なんだね。

☆ 学校や家庭での様々な生活場面の写真を電子黒板で投影することで、自分のことが自分でできなかつた経験を想起できるようにする。

○ 実態調査を基に意図的指名をしたり、自分づくりカードを見て考えられることができようようにする。経験場面を幅広く想起できるようにする。

○ 様々な要因で自分でしなかつたことが誰にもあることを認識することで、課題意識を高めたいめあての設定ができるようにする。

☆ 電子黒板を使っての紙芝居を視聴することで、話のあらすじをつかみやすくし、感想を出し合うことで話し合う場面の焦点化を図ることができるようになる。

○ 簡単な動作化を取り入れることで「さるたち」に自我関与できるようにする。

○ 役割演技を取り入れることで、自分でできようなことも、ついに頼ってしまいがちで、なかなか自分でしようとしにくい気持ちに共感できるようにする。

本主題に関わる考え方を広げたり、深めたりすることができたか。

◆ 役割演技を取り入れることで、対自分、対他者の多様な考えを導き出し、板書を見ながら子どもたちが自分の考えを整理できるようにする。また、「自分づくりカード」に本主題に関する大切な考えを書き入れ、黒板で類型化した観点を基に考えるようになり、教師と一緒に整理していく。

○ 「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する大切な考えをまとめ、これまでの経験と結び付けて考えることにより、その後の生活への実践意欲を高めることができるようにする。

○ 保護者からの手紙を読んで、実践意欲を高めることができるようにする。